

この展覧会はすでに終わって居りますが、三越本店が異例にも新館、旧館のギャラリーフロアを使っての大展示会でありました。

先日偶然お会いした藤原正彦氏の 270 万部のベストセラーとなった「国家の品格」の書き出しに「経済の柱となった市場原理をはじめ、留ることを知らないアメリカ化は経済を遙かに超えて、社会、文化、国民性までに深い影響を与えてしまったのです。金銭至上主義に取りつかれた日本人は、マネーゲームとしての財力にまかせた法律違反すれすれの買収を卑怯とも下品とも思わなくなってしまったのです。

戦後、祖国への誇りや自信を失うように教育され、すっかり足腰の弱っていた日本人は世界に誇るべき我が国古来の、「情緒の形」をあっさり忘れ、市場経済に代表される欧米の「倫理と合理」に身を売ってしまったのです。日本はこうして国柄を失いました。「国家の品格」をなくしてしまったのです。

こうした彼の考え方の中に日本の商人とは、和、分ち合い、情緒、茶道、自然、絵書を愛する美的観念を持っていたので、金持ちは威張らない、貧しいものは卑屈にならない、貧乏だった武士が尊敬されて居た社会だったと言われて居ります。そして宮本常一氏も藤原正彦氏にも日本人の秀れたすばらしい才智を育てて来たものは、四季移り変わるすばらしい大自然の景観が世界一の日本人を育てきたのだと言って居ります。

10 年前はよかった、20 年前はもっとよかったと嘆かれますが、それは日本人が和、分かち合う心、情緒感、感性を捨ててしまったからです・・・」と彼らは言うて居られます。

四季の花木の多い日本、四季朝夕、姿を変える山と海、花を活け、茶をいただき、虫の鳴き声を聞き、秋の紅葉を散策するこうした民族は世界に全く類のない民族だと言われます。

平成の琳派と言われる石踊達哉はつい最近では瀬戸内寂聴の源氏物語 54 帖の装幀画を担当、その画集は前例のない大ベストセラーになりました。かれは平成琳派と言われ、かつてクリムトが琳派に傾倒した様に欧米では高い評価、人気を得て居り、国内では世界遺産の金閣寺方丈の杉戸絵、客殿天井画、国向院市川別院本尊背景画、33 間堂普賢堂菩薩背景画を書き、現在妙法院門跡壁画を完成しその記念展覧会となった様です。展示された凡そ 60 余点の絵を見る時、西洋画は画家も絵も自己主張の強いものが目を引き名画と言われております。日本画は西洋画と違ってあまり自己主張しない禅や茶道に通ずる四季の移ろい、儂さと美しさを大切にしています。

商いの中には日々戦うだけでは心がもろくなってしまいます。美しい音楽を、美しい風景、書画の世界を持つことが大切と自分自身にもすすめて居ります。

平成の光琳、宗達としていつか見て下さい。心を癒すすばらしい絵です。

明日から友人に招かれて塩釜か石巻へ参ります。飯館村へも思っ居ります。楽しみにお待ち下さい。

毎日忙しいでしょうが、たまには都会の水を飲み、風に吹かれて心を癒して何かを見つけて来て下さい。